

令和3年度 福祉のまちづくり推進事業について（報告）

1 福祉のまちづくり推進事業

(1) 横浜市福祉のまちづくり推進会議等の開催

- ・横浜市福祉のまちづくり推進会議の開催（1回）
- ・横浜市福祉のまちづくり推進会議専門委員会の開催（2回）
～ 小規模建築物における施設整備基準の検討
- ・横浜市福祉のまちづくり推進会議小委員会の開催（1回）
～ 令和3年3月に策定した「横浜市福祉のまちづくり推進指針（令和3年度～令和7年度）（通称：ふくまちガイド 令和3年度～7年度）」（以下「推進指針」といいます。）の周知、浸透に向けて意見をお聞きしました。）

(2) 条例対象施設についての事前協議・相談等（通年）

横浜市福祉のまちづくり条例の対象となる施設を新設又は改修する際に、安全かつ円滑に利用できるようにするため、事前協議等を実施。

（参考）令和3年度協議終了件数 554件

(3) 福祉のまちづくり普及啓発

ア 福祉のまちづくり推進指針の浸透に向けた取組

(ア) 推進指針PR動画の作成

ふくまちの「くま」たちが『ふくまちガイド』の概要を紹介した3分間の動画を作成しました。（本市Youtubeチャンネル「CityOfYokohama」にて公開しています。）

【URL】

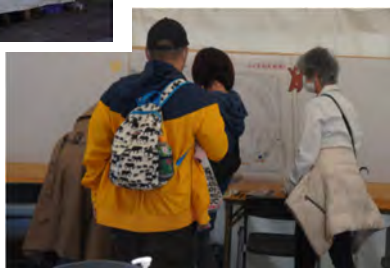
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/fuku-machi/jorei/fukushi-machidukuri/shishinr3.html>

(イ) ホッチポッチミュージックフェスティバルへの出展

年齢、性別、国籍、障害の有無などに関係なく、みんながごちゃまぜに参加する音楽祭である「ホッチポッチミュージックフェスティバル」にブースを出展しました。

- ・開催日：令和3年10月24日（日）（会場：横浜公園）
- ・出展テーマ：「ふくまち大発見！」

参加者には会場となった横浜公園で見つけた「ふくまち」を写真に撮ってきてもらい、みんなで「ふくまちマップ」を作成しました。



イ 新採用職員研修の実施（総務局主催）

横浜市職員として市民と接する上で必要な「福祉の視点」を養うことを目的に実施。

- ① 日 時：令和3年4月1日（木）
- ② テーマ：「インクルーシブなまちづくり」
- ③ 講 師：和久井 真糸 氏（福祉のまちづくり推進会議委員）
萩原 昌子 （横浜市健康福祉局障害施策推進課）
- ④ 受講者：新卒・社会人・技能職員採用 約780人

ウ 「福祉のまちづくり研修」の実施

横浜市職員及び市内の建築関係者を対象に、福祉のまちづくり条例、同条例施行規則における基本理念の学習とともに、セミナー、車いす体験や白杖を用いたフィールドワークを通して、施設整備基準の根拠を理解し、実際の業務に反映させていくことを目的に実施しました。

【開催概要】

- ① 日 時 1日目：令和3年10月18日（月） 9時00分～17時15分
2日目：令和3年11月2日（火） 9時00分～17時15分
- ② 会 場 横浜市役所1階 横浜市市民協働推進センター スペースA・B
- ③ 受講者 合計39名（1日目：20、2日目：19名）
※ 受講者内訳 本市職員…24名
（うち事務3名、建築6名、土木10名、造園3名、機械2名）
鉄道事業者…9名、その他（市内の建築関係者）…6名
- ④ 内 容
 - ・TOTO(株)によるトイレセミナー
 - ・障害当事者講話（発達障害、視覚障害）
 - ・車いす体験、白杖を用いたフィールドワーク
 - ・整備事例検討グループワーク

（写真）当日の様子



エ 市庁舎におけるエスカレーターの適正利用の周知

全国の鉄道事業者 51 社局、4 団体や空港施設、商業施設、自治体と共同でエスカレーター「歩かず立ち止まろう」キャンペーンに参加し、市庁舎内での適正利用の呼びかけを行いました。



2 高齢者・障害者等に配慮した路線バス整備事業

車いす使用者、高齢者、障害者やベビーカー利用者など誰もが乗降しやすいノンステップバスの導入を促進するため、横浜市内に営業所をもつ民営バス事業者に対し、導入に係る経費の一部を補助しています。

・令和3年度補助台数：2台

(参考：市内バス事業者のバス保有台数とノンステップバス導入率)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
保有台数 (台)	1,513	1,584	1,578	1,572
導入率 (%)	74.5%	77.6%	79.2%	79.8%

3 鉄道駅舎エレベーター等設置事業

高齢者・障害者を含むすべての人が生活し、活動しやすいまちづくりを推進するため、移動の拠点となる鉄道駅舎において鉄道事業者がエレベーターを設置する際に、経費の一部を補助しています。

・令和3年度は新規の補助は行っていません。

(参考)

○ 横浜市内全駅における段差解消駅

	市内全駅 (158 駅)	
	段差解消駅数	進捗率
23 年度末～3 年度末	152 駅	96.2%

9	福祉のまちづくり推進事業等		事業内容 「横浜に関わる全ての人がお互いを尊重し、助け合う、人の優しさにあふれたまちづくり」を実現するため、ソフト（知識や情報など無形の要素）とハード（施設整備など有形の要素）を一体的にとらえ、福祉のまちづくりを推進します。 また、福祉ニーズに十分に対応できるよう、環境等の整備を行います。
本年度	5億393万円		1 福祉のまちづくり推進事業 1,040万円 (1,164万円) 福祉のまちづくり推進指針を普及啓発するため、 動画等を活用した広報を行います。 また、3年度に引き続き条例の基準及び施設整備マニュアルを見直します。 (1) 「福祉のまちづくり推進会議」の開催 (2) 福祉のまちづくり条例に基づく施策の検討 (3) 推進指針の広報等 (4) 福祉のまちづくり普及啓発 (5) 条例対象施設についての事前協議・相談等 2 ノンステップバス導入促進補助事業 1,711万円 (2,592万円) 誰もが乗降しやすいノンステップバスの導入を促進するため、導入に係る経費の一部を補助します。(31台)
前年度	3億4,492万円		
差引	1億5,901万円		
本年度の財源内訳	国	1,283万円	
	県	—	
	その他	426万円	
	市費	4億8,684万円	
3 福祉有償運送事業 421万円 (420万円) 福祉有償運送を行う特定非営利活動法人等の登録、検査等を実施します。また、登録に先立ち、福祉有償運送の必要性及び適正な実施等について関係者による事前協議を行うため、福祉有償移動サービス運営協議会を開催します。			
4 再犯防止推進計画推進事業 148万円 (153万円) 「誰もが安心して自分らしく健やかに暮らすための更生支援の方向性—横浜市再犯防止推進計画—」を効果的、効率的に推進するため、「横浜市更生支援ネットワーク会議」を通じて、刑事司法関係者と市内福祉関係者等との連携協力関係を築きます。			
5 地域福祉保健関係職員人材育成事業 993万円 (908万円) (1) 市民の福祉保健を担う社会福祉職・保健師の専門性を向上させるため、職員から責任職までの一貫した育成体系に基づき、キャリア形成支援を行います。 (2) 次代の地域福祉保健人材の育成のため、社会福祉士・保健師等の資格取得を目的とした学生実習を各区福祉保健センターで受け入れます。 (3) 市民の福祉保健の向上に資する支援体制を維持していくため、採用が困難となっている社会福祉職・保健師の人材確保に取り組みます。			
6 福祉保健システム運用事業 4億6,080万円 (2億9,255万円) 高齢・障害・児童福祉等のサービス提供に使用する福祉保健システムの運用保守等を行います。また、情報システム標準化、法・制度改正対応等の改修を行います。			